

第4章 大学生生活および経済・生活支援と キャリア行動、キャリア意識との関連

本章では、学生の大学生生活や経済・生活支援の利用状況をふまえて、キャリア行動やキャリア意識に違いが見られるかについて検討する。

1節では、大学生生活とキャリア支援の利用との関連を示し、どのような大学生生活を送る学生がキャリア支援を積極的に利用しているかを検討する。2節では、経済・生活支援とキャリア意識との関連を示し、経済・生活支援を受けている学生がどのようなキャリア意識を持っているかを検討し、これらに基づいて、大学での支援の在り方についての示唆を得ることとしたい。

(1) 大学生生活、学業成績とキャリア支援の利用との関連

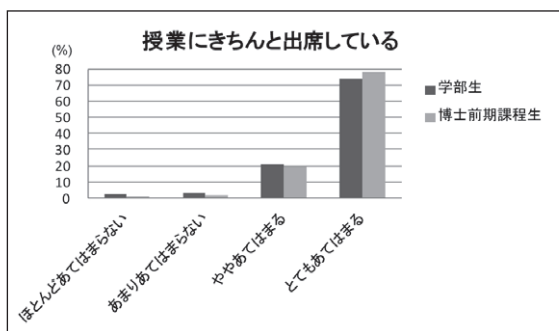
本節では、①大学生生活に対する態度、②学業成績の集計結果を示した後、これらとキャリア支援の利用との関連を示す。

1) 大学生生活に対する態度、学業成績

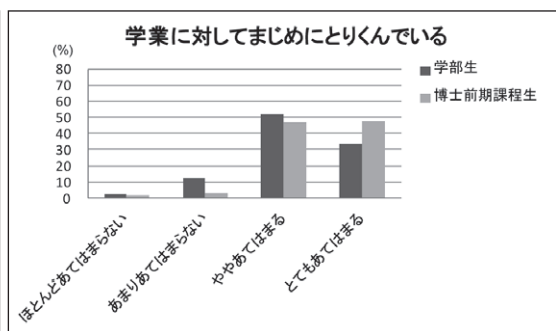
大学生生活に対する態度について、「1 ほとんどあてはまらない」「2 あまりあてはまらない」「3 ややあてはまる」「4 とてもあてはまる」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表4-1～6に示す。

また、前年度の成績について、「1 よくない」「2 あまりよくない」「3 中間ぐらい」「4 まあよい」「5 よい」の5肢択一で回答を求めた。結果を図表4-7に示す。

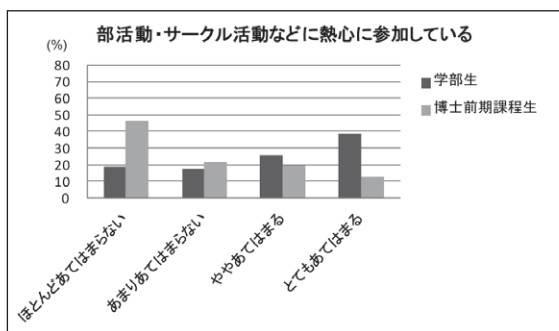
図表4-1



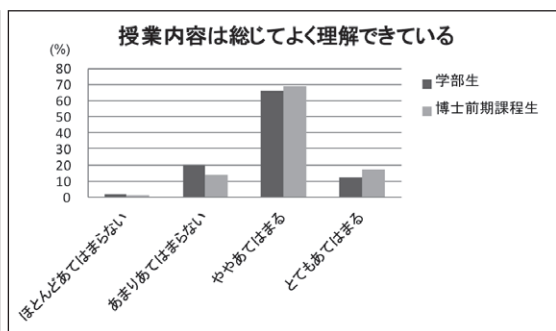
図表4-2



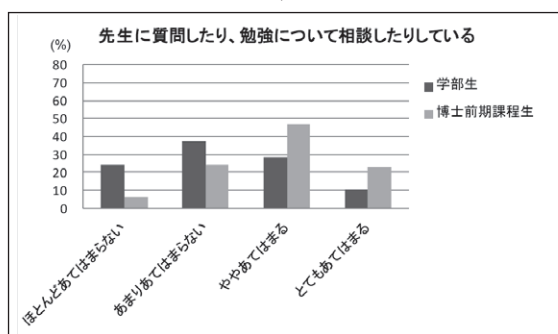
図表4-3



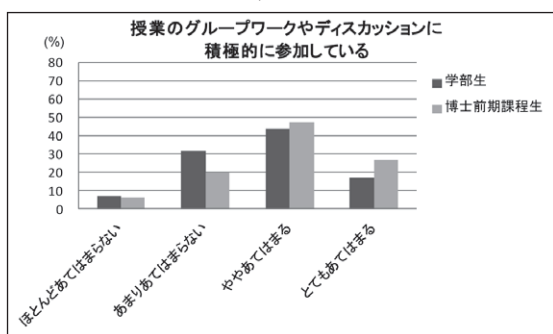
図表4-4



図表4-5

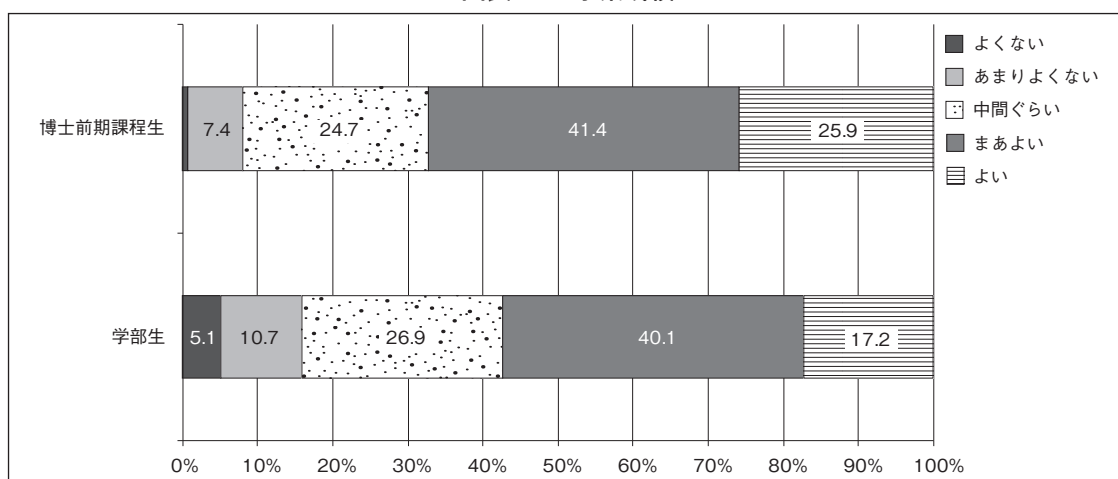


図表4-6



学部生、博士前期課程生とも、「授業にきちんと出席している」「学業に対してまじめにとりくんでいる」「授業内容は総じてよく理解できている」は「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の割合が高いことが示された。一方、学部生より博士前期課程生のほうが「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の割合が高かった項目は、「先生に質問したり、勉強について相談したりしている」「授業のグループワークやディスカッションに積極的に参加している」であり、博士前期課程生より学部生のほうが高かった項目は「部活動・サークル活動などに熱心に参加している」であった。したがって、これらの項目では、学部生と博士前期課程生の取り組み方に違いがあるものと考えられる。

図表4-7 学業成績



学業成績では、学部生、博士前期課程生とも、「まあよい」がそれぞれ40.1%、41.4%で最も多かった。学部生より博士前期課程生のほうが「よい」の比率が高く示されているが、学部生と博士前期課程生では、評価の基準が異なることが影響している可能性もあると考えられる。

2) 大学生生活に対する態度、学業成績とキャリア支援の利用との関連

大学生生活に対する態度とキャリア支援の利用との関連を検討するため、大学生生活に対する態度の合計得点を算出し、50%にあたる13点を基準にし、12点以下を低群、13点以上を高群として、この2群のキャリア支援の利用を比較した。キャリア支援の利用としては、「1 本学の教員・指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート(本学Webシステム)の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」それぞれの利用あり・なしの2群とした。結果を図表4-8～18に示す。

図表4-8 態度得点 × 本学の教員・指導教員等への相談

		本学の教員・指導教員等への相談		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	364	60	424
	総和の %	85.8%	14.2%	100.0%
態度得点高群	度数	251	119	370
	総和の %	67.8%	32.2%	100.0%
合計	度数	615	179	794
	総和の %	77.5%	22.5%	100.0%

(p<.05)

図表4-9 態度得点 × 本学のキャリアカウンセラーやアドバイザーへの相談

		本学のキャリアカウンセラーや キャリアアドバイザーへの相談		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	376	48	424
	総和の %	88.7%	11.3%	100.0%
態度得点高群	度数	315	55	370
	総和の %	85.1%	14.9%	100.0%
合計	度数	691	103	794
	総和の %	87.0%	13.0%	100.0%

(n. s.)

図表4-10 態度得点 × 本学（全体）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

		本学(大学全体)で開催される各種 セミナーやガイダンスへの参加		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	302	122	424
	総和の %	71.2%	28.8%	100.0%
態度得点高群	度数	246	124	370
	総和の %	66.5%	33.5%	100.0%
合計	度数	548	246	794
	総和の %	69.0%	31.0%	100.0%

(n. s.)

図表4-11 態度得点 × 本学（学部）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

		学部で開催される各種セミナーや ガイダンスへの参加		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	399	25	424
	総和の %	94.1%	5.9%	100.0%
態度得点高群	度数	354	16	370
	総和の %	95.7%	4.3%	100.0%
合計	度数	753	41	794
	総和の %	94.8%	5.2%	100.0%

(n. s.)

図表4-12 態度得点 × 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加

		学生相談室への相談や各種ワーク ショップへの参加		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	394	30	424
	総和の %	92.9%	7.1%	100.0%
態度得点高群	度数	338	32	370
	総和の %	91.4%	8.6%	100.0%
合計	度数	732	62	794
	総和の %	92.2%	7.8%	100.0%

(n. s.)

図表4-13 態度得点 × 就職情報資料室の利用

		就職情報資料室の利用		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	370	54	424
	総和の %	87.3%	12.7%	100.0%
態度得点高群	度数	324	46	370
	総和の %	87.6%	12.4%	100.0%
合計	度数	694	100	794
	総和の %	87.4%	12.6%	100.0%

(n. s.)

図表4-14 態度得点 × キャリアレポート放送局の利用

		キャリアレポート放送局の利用		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	421	3	424
	総和の %	99.3%	.7%	100.0%
態度得点高群	度数	361	9	370
	総和の %	97.6%	2.4%	100.0%
合計	度数	782	12	794
	総和の %	98.5%	1.5%	100.0%

(p<.05)

図表4-15 態度得点 × キャリアカフェの利用

		キャリアカフェの利用		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	407	17	424
	総和の %	96.0%	4.0%	100.0%
態度得点高群	度数	341	29	370
	総和の %	92.2%	7.8%	100.0%
合計	度数	748	46	794
	総和の %	94.2%	5.8%	100.0%

(p<.05)

図表4-16 態度得点 × 就活パスポートの利用

		就活パスポート (本学 Web システム)の利用		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	420	4	424
	総和の %	99.1%	.9%	100.0%
態度得点高群	度数	354	16	370
	総和の %	95.7%	4.3%	100.0%
合計	度数	774	20	794
	総和の %	97.5%	2.5%	100.0%

(p<.05)

図表4-17 態度得点 × キャリア支援センターのホームページを見る

		キャリア支援センターの ホームページを見る		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	396	28	424
	総和の %	93.4%	6.6%	100.0%
態度得点高群	度数	344	26	370
	総和の %	93.0%	7.0%	100.0%
合計	度数	740	54	794
	総和の %	93.2%	6.8%	100.0%

(n. s.)

図表4-18 態度得点 × その他のキャリア支援の利用

		その他		合計
		利用していない	利用した	
態度得点低群	度数	411	13	424
	総和の %	96. 9%	3. 1%	100. 0%
態度得点高群	度数	360	10	370
	総和の %	97. 3%	2. 7%	100. 0%
合計	度数	771	23	794
	総和の %	97. 1%	2. 9%	100. 0%

(n. s.)

分析の結果、大学生活に対する態度得点低群より高群のほうが、「本学の教員・指導教員等への相談」、「キャリアレポート放送局の利用」、「キャリアカフェの利用」、「就活パスポートの利用」をより多く行っていることが示された(図表4-8～18, $p<.05$)。その他のキャリア支援の利用では、大学生活に対する態度得点低群と高群との有意差は見られなかった。

このことから、大学生活に積極的に取り組んでいる学生は、上記のキャリア支援の利用も積極的に行っているものと考えられる。

次に、学業成績とキャリア支援の利用との関連を検討するため、学業成績の「よくない」「あまりよくない」をあわせて学業成績低群とし、「まあよい」「よい」を学業成績高群として、この2群のキャリア支援の利用を比較した。キャリア支援の利用としては、「1 本学の教員・指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」の利用あり・なしの2群とした。結果を図表4-19～29に示す。

図表4-19 学業成績 × 本学の教員・指導教員等への相談

		本学の教員・指導教員等への相談		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	90	23	113
	総和の %	79. 6%	20. 4%	100. 0%
学業成績高群	度数	359	116	475
	総和の %	75. 6%	24. 4%	100. 0%
合計	度数	449	139	588
	総和の %	76. 4%	23. 6%	100. 0%

(n. s.)

図表4-20 学業成績 × 本学のキャリアカウンセラーやアドバイザーへの相談

		本学のキャリアカウンセラーや キャリアアドバイザーへの相談		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	97	16	113
	総和の %	85.8%	14.2%	100.0%
学業成績高群	度数	413	62	475
	総和の %	86.9%	13.1%	100.0%
合計	度数	510	78	588
	総和の %	86.7%	13.3%	100.0%

(n. s.)

図表4-21 学業成績 × 本学（全体）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

		本学(大学全体)で開催される各種 セミナーやガイダンスへの参加		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	81	32	113
	総和の %	71.7%	28.3%	100.0%
学業成績高群	度数	325	150	475
	総和の %	68.4%	31.6%	100.0%
合計	度数	406	182	588
	総和の %	69.0%	31.0%	100.0%

(n. s.)

図表4-22 学業成績 × 本学（学部）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

		学部で開催される各種セミナーや ガイダンスへの参加		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	102	11	113
	総和の %	90.3%	9.7%	100.0%
学業成績高群	度数	456	19	475
	総和の %	96.0%	4.0%	100.0%
合計	度数	558	30	588
	総和の %	94.9%	5.1%	100.0%

(n. s.)

図表4-23 学業成績 × 学生相談室への相談やワークショップへの参加

		学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	100	13	113
	総和の %	88.5%	11.5%	100.0%
学業成績高群	度数	444	31	475
	総和の %	93.5%	6.5%	100.0%
合計	度数	544	44	588
	総和の %	92.5%	7.5%	100.0%

(n. s.)

図表4-24 学業成績 × 就職情報資料室の利用

		就職情報資料室の利用		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	99	14	113
	総和の %	87.6%	12.4%	100.0%
学業成績高群	度数	413	62	475
	総和の %	86.9%	13.1%	100.0%
合計	度数	512	76	588
	総和の %	87.1%	12.9%	100.0%

(n. s.)

図表4-25 学業成績 × キャリアレポート放送局の利用

		キャリアレポート放送局の利用		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	113	0	113
	総和の %	100.0%	.0%	100.0%
学業成績高群	度数	467	8	475
	総和の %	98.3%	1.7%	100.0%
合計	度数	580	8	588
	総和の %	98.6%	1.4%	100.0%

(n. s.)

図表4-26 学業成績 × キャリアカフェの利用

		キャリアカフェの利用		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	107	6	113
	総和の %	94.7%	5.3%	100.0%
学業成績高群	度数	445	30	475
	総和の %	93.7%	6.3%	100.0%
合計	度数	552	36	588
	総和の %	93.9%	6.1%	100.0%

(n. s.)

図表4-27 学業成績 × 就活パスポートの利用

		就活パスポート (本学 Web システム)の利用		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	112	1	113
	総和の %	99.1%	.9%	100.0%
学業成績高群	度数	459	16	475
	総和の %	96.6%	3.4%	100.0%
合計	度数	571	17	588
	総和の %	97.1%	2.9%	100.0%

(n. s.)

図表4-28 学業成績 × キャリア支援センターのホームページを見る

		キャリア支援センターの ホームページを見る		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	106	7	113
	総和の %	93.8%	6.2%	100.0%
学業成績高群	度数	446	29	475
	総和の %	93.9%	6.1%	100.0%
合計	度数	552	36	588
	総和の %	93.9%	6.1%	100.0%

(n. s.)

図表4-29 学業成績 × その他のキャリア支援の利用

		その他		合計
		利用していない	利用した	
学業成績低群	度数	106	7	113
	総和の %	93.8%	6.2%	100.0%
学業成績高群	度数	462	13	475
	総和の %	97.3%	2.7%	100.0%
合計	度数	568	20	588
	総和の %	96.6%	3.4%	100.0%

(n. s.)

その結果、全ての項目で有意な効果は見られなかった（図表4-19～29）。このことから、学業成績とキャリア支援の利用との関連は、あまり認められないものと考えられる。

先述したように、大学生活に対する態度とキャリア支援の利用との関連が認められたことを踏まえると、キャリア支援の利用に積極的かどうかは、学業成績ではなく、大学生活への積極性との関連が強いのではないかと考えられる。このことから、大学生活への積極性を伸ばすことが、キャリア支援の利用にもつながっていくといえるのではないだろうか。

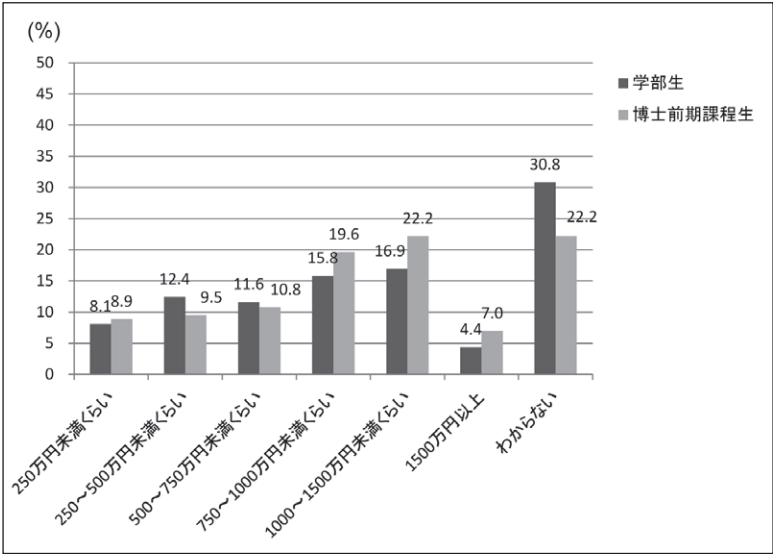
(2)経済・生活支援とキャリア意識との関連

本節では、経済・生活支援の状況に着目し、①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況についての集計結果を示した後、これらとキャリア意識との関連を示す。

1) 世帯年収

世帯年収について、「1 250万円未満くらい」「2 250万円～500万円未満くらい」「3 500万円以上750万円未満くらい」「4 750万円以上1,000万円未満くらい」「5 1,000万円以上1,500万円未満くらい」「6 1,500万円以上」「7 わからない」の7肢択一で回答を求めた。結果を図表4-30に示す。

図表4-30 世帯年収



「わからない」を除いて、もっとも多いのは、学部生、博士前期課程生とも、「1,000万円以上1,500万円未満くらい」（それぞれ、16.9%、22.2%）であり、次いで「750万円以上1,000万円未満くらい」（それぞれ、15.8%、19.6%）であった。

日本学生支援機構による「平成20年度学生生活調査」によれば、世帯年収の平均は、全体では822万円、国立大学・女子に限れば793万円であり（図表4-31）、本学の結果は、国立大学・女子の年間平均収入よりも高いことがうかがえる。

図表4-31 家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）

（単位：％）

区分		家庭の年間収入															計	(参考) 平均年間 収入額 千円
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上		
男	国立	3.3	4.0	6.1	9.1	9.0	10.4	17.4	11.4	6.0	9.5	1.6	3.6	1.5	0.7	6.2	100.0	7,910
	公立	2.6	5.9	8.5	9.8	9.8	12.3	19.1	9.6	6.4	7.1	1.6	1.8	1.2	0.4	3.8	100.0	7,020
	私立	2.3	3.9	6.4	8.8	10.0	10.1	9.6	20.3	5.6	9.9	1.7	2.9	1.1	0.7	6.7	100.0	8,170
女	国立	4.8	4.5	6.7	8.8	8.0	8.1	9.7	19.7	5.8	9.8	1.7	2.0	2.2	1.5	6.7	100.0	7,930
	公立	4.2	4.2	7.3	8.6	11.1	9.8	19.9	10.0	5.4	7.9	2.4	2.4	1.1	0.9	4.7	100.0	7,400
	私立	3.0	3.9	5.5	6.9	9.3	8.7	9.6	21.0	6.7	9.5	2.2	3.3	1.7	0.8	7.8	100.0	8,540
平均	国立	3.9	(8.1) 4.2	(14.4) 6.3	(23.4) 9.0	(32.0) 8.6	(41.5) 9.5	(56.0) 14.5	(70.5) 14.5	(76.4) 5.9	(86.0) 9.6	(87.7) 1.7	(90.7) 3.0	(92.5) 1.8	(93.5) 1.0	(100.0) 6.5	100.0	7,920
	公立	3.5	(8.4) 4.9	(16.2) 7.8	(25.3) 9.1	(35.9) 10.6	(46.8) 10.9	(66.4) 19.6	(76.3) 9.9	(82.1) 5.8	(89.7) 7.6	(91.8) 2.1	(93.9) 2.1	(95.1) 1.2	(95.8) 0.7	(100.0) 4.2	100.0	7,240
	私立	2.7	(6.6) 3.9	(12.6) 6.0	(20.5) 7.9	(30.2) 9.7	(39.6) 9.4	(49.2) 9.6	(69.8) 20.6	(75.9) 6.1	(85.6) 9.7	(87.5) 1.9	(90.6) 3.1	(92.0) 1.4	(92.8) 0.8	(100.0) 7.2	100.0	8,340
	計	2.9	(6.9) 4.0	(13.0) 6.1	(21.2) 8.2	(30.7) 9.5	(40.2) 9.5	(51.1) 10.9	(70.1) 19.0	(76.2) 6.1	(85.8) 9.6	(87.7) 1.9	(90.7) 3.0	(92.1) 1.4	(92.9) 0.8	(100.0) 7.1	100.0	8,220

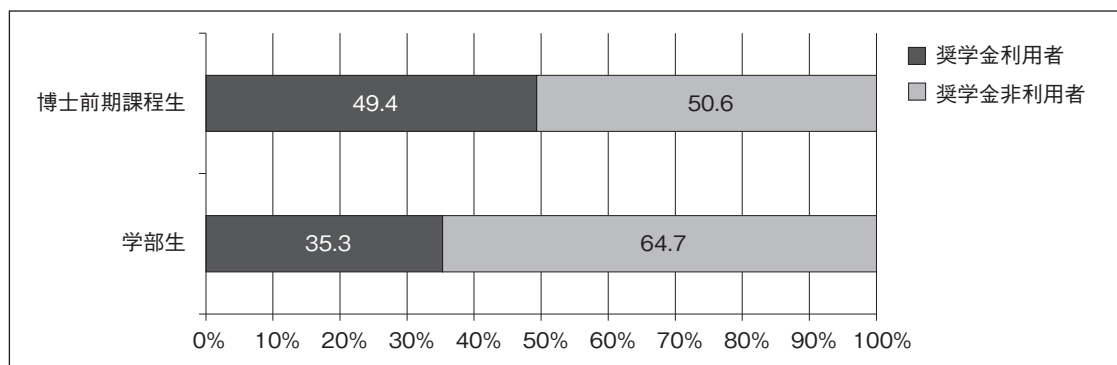
（注）（ ）は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

（出典）日本学生支援機構「平成20年度学生生活調査」

2) 奨学金制度の利用状況

奨学金制度の利用状況について、「日本学生支援機構の奨学金」「地方公共団体の奨学金」「本学独自の奨学金」「民間奨学団体の奨学金」「その他の奨学金」のそれぞれについて、「1：給付」「2：貸与（ある場合のみ）」「3：受けていない」から回答を求めた（集計結果は、2章p27参照）。ここでは、これらの奨学金制度を一つでも利用しているものを奨学金利用者群とし、利用したことがないものを奨学金非利用者群として、結果を図表4-32に示す。

図表4-32 奨学金制度の利用状況

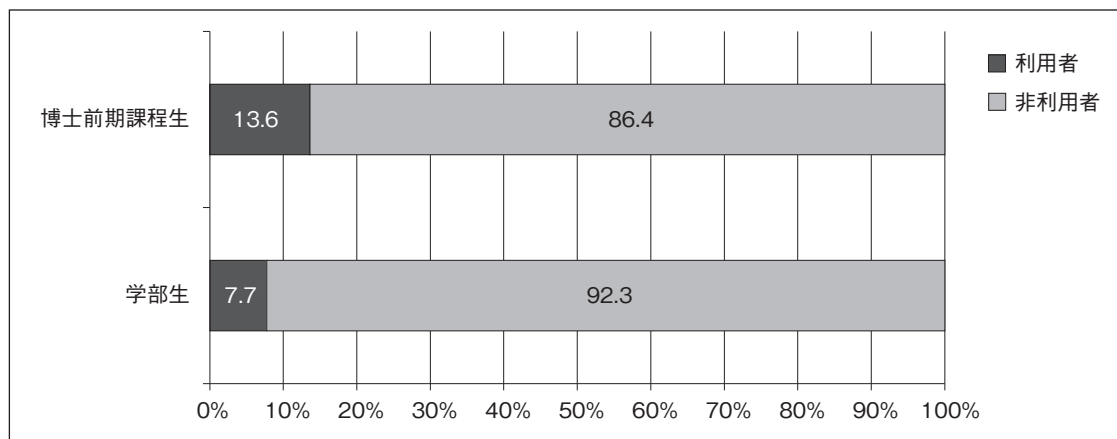


奨学金制度を1つでも利用している者は、学部生では35.3%、博士前期課程生では49.4%であった。このことから、奨学金制度の利用者は、学部生より、博士前期課程生のほうが多いといえる。

3) 授業料免除制度の利用状況

授業料免除制度の利用状況について、「1 受けている」「2 受けていない」から回答を求めた。結果を図表4-33に示す。

図表4-33 授業料免除制度の利用状況



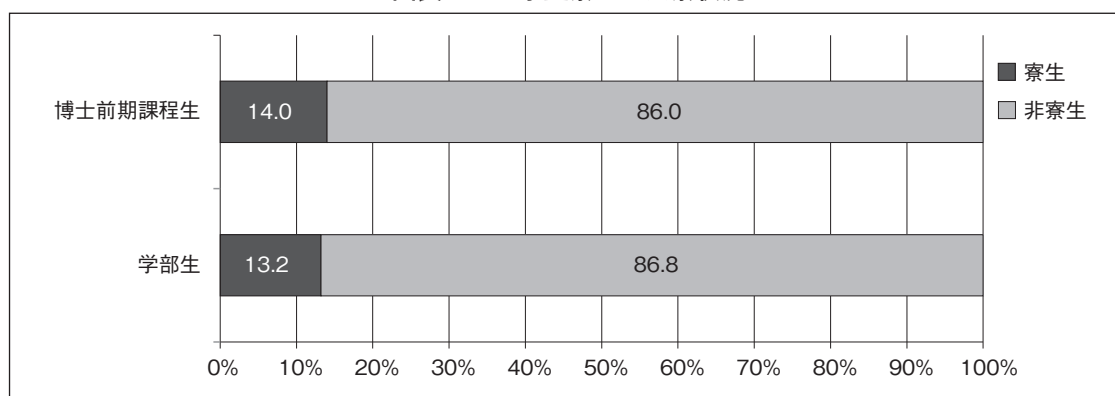
授業料免除制度を利用している者は、学部生では7.7%、博士前期課程生では13.6%であった。このことから、奨学金制度ほどではないものの、授業料免除制度の利用にも、学部生と博士前期課程生との差異があるといえる。

4) 学生寮への入寮状況

学生寮への入寮状況について、「1 現在入寮している」「2 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」「3 入寮を申請したが、許可されなかった」「4 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない」「5 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」「6 入寮を考えたことはない」の6肢択一で回答を求めた。また、「入寮している」と回答した者には、「1 国際学生宿舎」「2 小石川寮」「3 お茶大SCC」から選択するように求めた（集計結果は2章p28参照）。ここでは、入寮しているものを寮生とし、

入寮していないものを非寮生として、結果を図表4-34に示す。

図表4-34 学生寮への入寮状況



学生寮に入寮している者は、学部生では13.2%であり、博士前期課程生では14.0%であった。このことから、学生寮への入寮については、学部生と博士前期課程生とで、同様の傾向が認められた。

5) 経済・生活支援と将来のキャリアに対する意識との関連

経済・生活支援と将来のキャリアに対する意識との関連を検討するため、経済・生活支援（①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況）×将来のキャリアに対する意識のクロス表を作成した。結果を図表4-35～42に示す。

図表4-35 世帯年収 × キャリアに対する意識

			自分のキャリアについてどう考えているか					合計
			やりたい仕事 が明確にある	仕事について漠 然と考えている	まだ先の事なの で今は考えてい ない	全く関心がない	何をしたいのか 自分でもわから ない	
年収	250万円未満くら い	度数	16	36	3	1	8	64
		総和の %	25.0%	56.3%	4.7%	1.6%	12.5%	100.0%
	250万円～500万円 未満くらい	度数	21	54	4	0	13	92
		総和の %	22.8%	58.7%	4.3%	.0%	14.1%	100.0%
	500万円～750万円 未満くらい	度数	20	57	2	0	9	88
		総和の %	22.7%	64.8%	2.3%	.0%	10.2%	100.0%
	750万円～1000万 円未満くらい	度数	25	81	3	0	17	126
		総和の %	19.8%	64.3%	2.4%	.0%	13.5%	100.0%
	1000万円～1500万 円未満くらい	度数	32	82	9	0	16	139
		総和の %	23.0%	59.0%	6.5%	.0%	11.5%	100.0%
	1500万円以上	度数	7	22	2	0	6	37
		総和の %	18.9%	59.5%	5.4%	.0%	16.2%	100.0%
	わからない	度数	39	133	14	2	35	223
		総和の %	17.5%	59.6%	6.3%	.9%	15.7%	100.0%
合計	度数	160	465	37	3	104	769	
	総和の %	20.8%	60.5%	4.8%	.4%	13.5%	100.0%	

(n. s.)

図表4-36 奨学金受給状況 × キャリアに対する意識

			自分のキャリアについてどう考えているか					合計
			やりたい仕事 が明確にある	仕事について漠 然と考えている	まだ先の事なの で今は考えてい ない	全く関心がない	何をしたいのか 自分でもわから ない	
奨学金受給状況	受けている	度数	63	185	11	1	35	295
		総和の %	21. 4%	62. 7%	3. 7%	. 3%	11. 9%	100. 0%
	受けていない	度数	97	286	27	2	72	484
		総和の %	20. 0%	59. 1%	5. 6%	. 4%	14. 9%	100. 0%
合計		度数	160	471	38	3	107	779
		総和の %	20. 5%	60. 5%	4. 9%	. 4%	13. 7%	100. 0%

(n. s.)

図表4-37 授業料免除 × キャリアに対する意識

			自分のキャリアについてどう考えているか					合計
			やりたい仕事 が明確にある	仕事について漠 然と考えている	まだ先の事なの で今は考えてい ない	全く関心がない	何をしたいのか 自分でもわから ない	
授業料免除	受けている	度数	24	35	3	0	7	69
		総和の %	34. 8%	50. 7%	4. 3%	. 0%	10. 1%	100. 0%
	受けていない	度数	135	428	34	3	97	697
		総和の %	19. 4%	61. 4%	4. 9%	. 4%	13. 9%	100. 0%
合計		度数	159	463	37	3	104	766
		総和の %	20. 8%	60. 4%	4. 8%	. 4%	13. 6%	100. 0%

(p<.05)

図表4-38 入寮状況 × キャリアに対する意識

			自分のキャリアについてどう考えているか					合計
			やりたい仕事 が明確にある	仕事について漠 然と考えている	まだ先の事なの で今は考えてい ない	全く関心がない	何をしたいのか 自分でもわから ない	
入寮状況	寮生	度数	27	53	5	1	17	103
		総和の %	26. 2%	51. 5%	4. 9%	1. 0%	16. 5%	100. 0%
	非寮生	度数	132	416	33	2	91	674
		総和の %	19. 6%	61. 7%	4. 9%	. 3%	13. 5%	100. 0%
合計		度数	159	469	38	3	108	777
		総和の %	20. 5%	60. 4%	4. 9%	. 4%	13. 9%	100. 0%

(n. s.)

分析の結果、授業料免除を受けていない学生より受けている学生のほうが、「やりたい仕事」が明確にある」の割合が高いことが示された（図表2-8, $p<.05$ ）。その他の経済・生活支援では、有意差は見られなかった。このことから、経済・生活支援によるキャリアに対する意識の違いはあまり見られないものの、一部で、現在、生活支援を受けている学生のほうが、キャリアに対する意識がより明確である可能性が示唆された。

6) 経済・生活支援と希望進路との関連

経済・生活支援と希望進路との関連を検討するため、経済・生活支援（①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況）×希望進路のクロス表を作成した。結果を図表4-39～13に示す。

図表4-39 世帯年収 × 希望進路

			一番希望している就職先					合計
			民間企業	教員	公務員	進学	その他	
年収	250万円未満くらい	度数	11	1	4	8	1	25
		総和の %	44. 0%	4. 0%	16. 0%	32. 0%	4. 0%	100. 0%
	250万円～500万円 未満くらい	度数	13	3	5	10	0	31
		総和の %	41. 9%	9. 7%	16. 1%	32. 3%	. 0%	100. 0%
	500万円～750万円 未満くらい	度数	20	4	9	9	0	42
		総和の %	47. 6%	9. 5%	21. 4%	21. 4%	. 0%	100. 0%
	750万円～1000万円 未満くらい	度数	30	7	10	14	3	64
		総和の %	46. 9%	10. 9%	15. 6%	21. 9%	4. 7%	100. 0%
	1000万円～1500万 円未満くらい	度数	25	4	5	20	4	58
		総和の %	43. 1%	6. 9%	8. 6%	34. 5%	6. 9%	100. 0%
	1500万円以上	度数	9	1	0	7	0	17
		総和の %	52. 9%	5. 9%	. 0%	41. 2%	. 0%	100. 0%
	わからない	度数	30	9	16	30	4	89
		総和の %	33. 7%	10. 1%	18. 0%	33. 7%	4. 5%	100. 0%
合計		度数	138	29	49	98	12	326
		総和の %	42. 3%	8. 9%	15. 0%	30. 1%	3. 7%	100. 0%

(n. s.)

図表4-40 奨学金受給状況 × 希望進路

			一番希望している就職先					合計
			民間企業	教員	公務員	進学	その他	
奨学金 受給状況	受けている	度数	62	5	21	42	3	133
		総和の %	46.6%	3.8%	15.8%	31.6%	2.3%	100.0%
	受けていない	度数	77	23	28	57	9	194
		総和の %	39.7%	11.9%	14.4%	29.4%	4.6%	100.0%
合計		度数	139	28	49	99	12	327
		総和の %	42.5%	8.6%	15.0%	30.3%	3.7%	100.0%

(n. s.)

図表4-41 授業料免除 × 希望進路

			一番希望している就職先					合計
			民間企業	教員	公務員	進学	その他	
授業料 免除	受けている	度数	7	0	6	11	0	24
		総和の %	29. 2%	. 0%	25. 0%	45. 8%	. 0%	100. 0%
	受けていない	度数	132	28	41	84	12	297
		総和の %	44. 4%	9. 4%	13. 8%	28. 3%	4. 0%	100. 0%
合計		度数	139	28	47	95	12	321
		総和の %	43. 3%	8. 7%	14. 6%	29. 6%	3. 7%	100. 0%

(n. s.)

図表4-42 入寮状況 × 希望進路

			一番希望している就職先					合計
			民間企業	教員	公務員	進学	その他	
入寮状況	寮生	度数	23	4	8	9	2	46
		総和の %	50.0%	8.7%	17.4%	19.6%	4.3%	100.0%
	非寮生	度数	116	25	40	90	10	281
		総和の %	41.3%	8.9%	14.2%	32.0%	3.6%	100.0%
合計		度数	139	29	48	99	12	327
		総和の %	42.5%	8.9%	14.7%	30.3%	3.7%	100.0%

(n. s.)

分析の結果、経済・生活支援と希望進路の関連では、有意差は見られなかった。このことから、経済・生活支援の利用状況によって、希望する進路に違いは見られないものと考えられる。

先述したように、キャリアに対する意識では、経済・生活支援の利用状況による違いは全体的には見られなかったが、一部で、生活支援を受けている学生のほうが、キャリアに対する意識がより明確であることが示された。このことを踏まえると、生活支援を受けている学生は、大学での支援を始めとした情報への関心が高く、キャリアに関する情報も自ら得ており、意識も高いのではないかと考えられる。ただし、経済・生活支援は、所得等による制限も加味されているため、そうした要因も影響している可能性もあるが、大学での支援についての情報発信を多様な学生に効果的に行うことは、今後の支援の在り方を検討する上でも考慮する必要があるだろう。